男性顔におけるパーツの大きさおよび配置が 印象評定に及ぼす影響

○森岡陽介

(聖カタリナ大学 人間健康福祉学部)

キーワード：男性顔 パーツ 印象評定

The effect of parts size and balance of men's face on the impressions

Yosuke MORIOKA

(Department of Human and Social Sciences, St. Catherine University)

Key Words: clothes selection, self-consciousness, impression

目 的

外見魅力の研究, および外見の魅力がもたらす暗黙裡の性格観に関する研究は多く行われてきた。Cunningham (1986) は大きな目, 高い頬骨, 狭い頬などの特徴をあげている。特に, 大きな目, 小さな鼻, 小さな顎, 目の中心と目の中心の距離が大きい顔は幼児性の特徴といわれており, 日本人を対象とした研究でも一貫して報告されている。しかしこれは女性の魅力顔であり, 男性の顔を対象とした研究はほとんどない。そこで, 本研究では男性の顔を用いて顔のパーツ形状, およびバランスの変化がもたらす印象評価について検討する。さらに, もともと容姿が良い, 悪いに応じてその印象変化の内容が変わることが予想されるため, 合わせて検討する。

方 法

実験参加者 大学生 70 名 (男 44 名, 女性 26 名, 平均年齢 18.46 ± 0.63 歳) が参加した。

質問紙 顔画像に対する魅力度評定尺度

顔画像を評定する項目として, 「かっこいい」「明るい」「優しい」「男らしい」「大人っぽい」の 5 項目を 6 件法で評定させた。

刺激および装置 インターネットの画像検索を使って一般人男性の画像 3 枚を集めた。予備実験の結果, 「容姿が良い」「ふつう」「容姿が悪い」人物各 3 名, 計 9 枚の画像を選出し, これらの画像をスマートフォンアプリ「Adobe Photoshop fix (Adobe 社) バージョン 1.7」を使い目の大きさ, 目の距離, 鼻と口の距離の 3 か所を変化させた画像を用意した。変化は目の大きさ最大最小, 目の距離最大最小, 鼻と口の距離最大最小といったように最大まで変化した画像を用意した。変化はパーツごとに 1 か所ずつ行った。そのため, 元の画像と各パーツの最大最小 (目, 目の距離, 鼻と口の距離) を変化した画像合わせて 7 枚の画像を作成した。容姿が良い, 普通, 悪いそれぞれ 3 名ずつ計 9 名につき, 7 枚の画像を作成し, 最終的に 63 枚の画像を作成した。

手続き 実験は講義の一部を使用して集団法によって実施した。パーソナルコンピューターを介し, マイクロソフトパワーポイントを用いてスクリーンに画像を 1 枚ずつ投影し, 各画像ごとの評価を 5 項目で評価させた。

結果および考察

容姿の違い, およびパーツの変更によってかっこいい得点に違いがあるかどうかを検討するため, 容姿 (容姿が良い, 普通, 容姿が悪い) $\times$ 変更条件 (標準, 目最大, 目最小, 目距離最大, 目距離最小, 鼻距離最大, 鼻距離最小) の被験者内計画による 2 要因分散分析を行った。その結果, 交互作用が有意

であった (Figure 1)。容姿の変更条件における容姿の単純主効果について Tukey 法による多重比較を行ったところ, 全ての変更条件において容姿が良い, 普通, 容姿が悪いの順にかっこいい得点が高かった。同様に, 容姿における変更条件の単純主効果について Tukey 法による多重比較を行ったところ, 容姿が良い顔については目最大よりも標準の方が, 逆に鼻距離最小の方が標準よりも有意にかっこいい得点が高かった。普通顔, 容姿が悪い顔においては標準と差があるものはなかった。容姿が良い場合, 目を大きくすると標準よりもかっこいい得点が下がるのは, Cunningham (1986) が大きな目というパーツが女性の魅力的な幼児性の特徴として挙げており, 幼児性を連想させるため, 男性では逆に評価が低くなった考えられる。鼻下と唇の距離を縮めた場合に評価が高くなった結果については, 口の上端と鼻の下端が狭くなると錯覚的に鼻が長く, 高く見え, さらに小顔効果も出るため, 結果として評価が高くなった可能性がある。

優しそう得点でも同様に交互作用が有意であり (Figure 2), 下位検定の結果, 標準では容姿が良い顔が最も得点が高いが, 目最大, 目最小, 目距離最大, 目距離最小, 鼻距離最小の場合で容姿が普通の人のほうが容姿が良い人より得点が高くなった。これは先行研究によって各パーツが均等にバランス良く配置された平均顔を人は好むこと, また親しみやすさ, 正常性を感じると報告されていることから, 目の大きさ, 目の距離, 鼻下の距離が短いなど各パーツを変えると, 顔全体のバランスが悪くなり, 総じて親しみやすさ, 正常性も欠けて見えるため, 優しそう得点が下がったと考えられる。このことは, 魅力的な顔の特徴は各パーツの形状というよりも, それら全体の配置, バランスによって特徴づけられる可能性を示唆する。

Figure 1 かっこいい項目の平均得点

Figure 2 優しそう項目の平均得点

引用文献

Cunningham, M. R. (1986). Measuring the physical in physical attractiveness: Quasi-Experiments on the sociobiology of female facial beauty. *Journal of Personality and Social Psychology*, 50, 925-935.